

JBNサポートセンターレポート

Japan Builders Network

2014. March
No.56

3月号

- ①大工育成基金の創設 業界としての取り組み
- ②活動報告、事務局ダイアリー
- ③地域型木造住宅フォーラムin益田、性能向上リフォームのすすめ講習会ほか
- ④お知らせ

お知らせ

講習会・セミナー・見学会

●JBNインスペクター 「木造住宅・工事管理の実務-地盤基礎部門-」講習会

JBNインスペクション・システムの一環として工事種別の工事管理講習会です。JBN協力機関と連携し、より専門的、具体的に工事管理のポイントを分かり易く解説します。現場監督の能力向上研修としてご活用ください。

講習修了後の審査合格者にはJBNインスペクター(地盤・基礎部門)証を交付します。

主催:JBN・サポートセンター
協力:(一財)建材試験センター、(株)住宅保証機構
開催地:建材試験センター 西日本試験所
山口県山陽小野田市大字山川

開催日時:2014年4月17日(木) 10:00~17:00

プログラム

- 10:00—11:00 木造住宅の工事管理とJBNインスペクション・システム (一社)JBN・サポートセンター長 藤澤好一
- 11:00—12:30 木造住宅の地盤基礎と事故事例と管理ポイント (株)住宅保証機構 技術部
- 13:20—14:00 建材試験センターの評価、試験業務、施設紹介 (一財)建材試験センター西日本試験所所長 井上英雄
- 14:00—15:20 基礎工事の管理ポイント 西日本試験所課長代理 流田靖博
- 15:30—16:30 基礎の鉄筋・コンクリートの品質と試験 宇都宮大学名誉教授 樹田佳寛
- 16:30—17:00 考查

受講料:3,000円 (テキスト代を含む)

その後の予定

開催日時:2014年6月19日(木) 10:00~17:00

開催場所:建材試験センター・中央試験所

以降、全国5カ所で開催

7月・近畿、9月・北海道、11月・東北、12月・中部で開催予定

新しい刊行物

●性能向上リフォームのすすめ

性能向上リフォームの考え方と応用マニュアル 国土交通省平成25年度「木造住宅施工能力向上・継承事業」の成果物です。

長期優良住宅化リフォーム推進事業等でご活用ください。

企画監修:JBN・既存改修委員会

刊行:一般社団法人JBN 2014年2月

A4・33ページ



●リフォームガイド

顧客とのコミュニケーションの強化と情報発信の必要性

編集:建築住宅の情報コミュニティサイト「タテコミ」

刊行:一般社団法人JBN 2014年2月

A4・46ページ



●聞き取り・現地調査と維持管理のためのガイドライン

国土交通省平成25年度「住宅ストック活用・リフォーム推進事業のうちリフォームの担い手支援事業(リフォーム工事に係る設計・施工基準等の作成等)」の成果物です。

長期優良住宅化リフォーム推進事業等でご活用ください。

●発行

一般社団法人 JBN・サポートセンター

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-4-10 京橋北見ビル東館6階
TEL.03-5540-6678 FAX.03-5540-6679
E-mail : jbn@jbn-support.jp homepage : http://www.jbn-support.jp
©JBN・サポートセンター 禁断転載

用ください。

企画監修:JBN・既存改修委員会

刊行:一般社団法人JBN 2014年2月

A4・42ページ

●「木造建築士資格研修テキスト」平成26年度版配本

「地域型住宅ブランド化」「長期優良化リフォームのインスペクション」の信頼できる担い手に木造建築士の資格試験にあわせて改訂増補しました。

編集:JBN・サポートセンター **監修:**藤澤好一
2014年2月20日配本

定価:3,800円(消費税込) 発行:井上書院



●JBN全国大会in広島 設立5周年記念誌

開催された大会の内容の記録に重点をおいた記念誌です。

5周年記念大会の意義は、JBNにとって新しい歴史を刻み、未来を語り合う、ことにあり、テーマは「地域工務店の新たな市場展開」。分科会テーマも「5つの新たな市場展開」であり、地域に貢献できる業態としてこれからをどう切り拓くか、でした。会期も三日間にわたり、式典の前後に、第1回大工エキスパートマスターズ大会、5会場での分科会を配し、これまでにない企画として、新しい歴史を刻むためのプログラムを1年近くかけて練り上げ、準備してきた大会の全記録です。

本誌とともに全会員にお届けします。

刊行:一般社団法人JBN 2014年1月 A4・72ページ



●地域工務店の省エネ住宅仕様事例集

一さあ、始めよう、一エネルギー消費量表示—
大会・第三分科会(環境委員会)「地域工務店ならではの省エネ住宅仕様の先進事例を学びつくす」のテキストとして編集、刊行されました。20社26事例が紹介されています。監修:JBN・環境委員会 刊行協力:創樹社 刊行:2013年11月 A4・66ページ 定価:1,500円(税込)



●「性能向上リフォームで生まれ変わる家」消費者向けのパンフレットができました。

先に刊行された「既存住宅の性能向上リフォーム-耐震・断熱で生まれ変わる家」から、消費者向けに性能向上リフォームをすすめる上でのポイントと施工事例を判りやすく、順序だてて説明しています。営業ツールとして、内部研修資料としてご活用ください。

A4・6ページ

セット単位でお申し込みください。

会員頒価:1セット(20部) 2,500円(税・送料共)



●「既存住宅の性能向上リフォーム-耐震・断熱で生まれ変わる家」既存住宅の性能向上リフォーム研修会用テキスト

国土交通省・平成24年度補助事業「木造住宅等の施工能力向上・継承事業-既存住宅の性能向上リフォーム」により地域工務店ならではの事例にもとづく実務書が刊行されました。

- 構成: ①性能向上リフォームのすすめ
- ②北海道発の性能向上リフォームに学ぶ
- ③事例に学ぶ性能向上リフォーム
- ④参考情報

刊行:2013年2月 A4・69ページ

監修:JBN・サポートセンター



大工育成のための基金創設 ご協力をお願い

JBNでは、第0607回理事会(2面に議事録概要)において、大工育成を主要な事業の一つとして改訂確認した上で、「大工育成基金(仮称)」を創設することを決議しました。基金については本会計から元入金金を拠出することとし、その金額、基金の名称、寄付・募金の詳細については、河井副会長、大工育成WG(主査・西村理事)のもとで検討し、規則類を整備した上で新年度早々の創設を予定しています。

■事業の主旨

地域工務店にとって現場施工の要である大工不足が深刻な事態(下段・国勢調査参照)となっています。そのための対策は私たち業界自らが考え、取り組みねばならない喫緊の課題です。JBNでは、国からの助成に頼るのではなく、業界の主体性と自主財源のもとに進めるべき事業と位置づけ、組織をあげて取り組むことにしました。その第一歩が「大工の育成・雇用安定化のための基金」の創設です。大工になりたい新卒者の適切な確保・育成・雇用によって、キャリアアップをはかりながら優れた人材として処遇するための活動を支援するためのファンドです。

■主な事業内容

- ①大工エキスパートJBNマスターズの定期開催
- ②新卒者の募集、確保、育成のための広報活動
- ③訓練プログラム・施設等の整備
- ④訓練および能力評価のための基準等の策定
- ⑤就労モデル、キャリアパスの確立、支援
- ⑥関連業界との調整、連携



昨年のJBN全国大会in広島と同時開催の第1回大工エキスパートJBNマスターズ大会では新人部門、リーダー部門で全国から集まった若手大工が技を競い、地元の工業高校生が多数見学しました。

■募金について

- ・法人税等が課される収益事業にも該当しない特定事業として収支管理する。
- ・当面は任意とし、年会費と区分した募金とする。
- ・寄付の性格をもつが所得税上寄附金控除の対象とはならない。ただし、公益事業として寄付の寄付金控除を受けられる法人化も検討する。

技術・技能に優れた人材を育て、活躍出来る業界を目指します JBN主催「工務店セミナー」で河井副会長が講演

2月26(水)~28日(金) 東京ビッグサイト・西ホールで開催された第4回 エコハウス&エコビルディングEXPOは、省エネ住宅・エコ建築に必要な建材、住宅設備、関連技術が展示されるこの分野ではわが国最大規模の展示会。工務店、設計事務所、ハウスメーカー、ゼネコンなどが多数来場しました。JBNでは、専用のセミナー・コーナーの提供を受け、工務店を対象に省エネ

を中心としたテーマのセミナーを開催しました。

主なセミナー・プログラムは下記の通りで、多彩な顔触れの講師陣と来場者の交流も活発でした。

- ①JBN会長・副会長による「地域工務店の生き残りをサポートするJBN」
- ②JBN環境委員会メンバーによる「全国各地の省エネ住宅最新事例報告」
- ③JBN協会会員による工務店の先端戦略(工務店の可能性)
- ④新規顧客獲得のための先端的取り組み(ICT活用)

初日、トップを務めた河井副会長は、「いま地域工務店は何をなすべきか」をテーマに全国組織としてのJBNの活動と展望を語り、地域の連携団体としてJBN工務店憲章を説明し、地域工務店が生き残り差別化のためには大工育成が重要だと強調しました。次いで、広島工務店協会の活動を具体例を交えながら地域工務店の存在について訴えました。地域工務店像として、事務所のほかに資材置き場、加工場をもち、専属の技能者を育て、雇い、地域の需要にきめ細かく対応している点を特徴にあげ、これにパワーをつけるには一社一社がバラバラでは駄目で、束になり、組織化することが何よりも大切と呼びかけました。



大工育成に向けた業界の取組み

2010年、国土交通省・林野庁共同プロジェクトとして「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」がスタートし、教育機関、地域の業界団体、グループなどが応募する取組みが行われてきましたがいずれも成果は限定的な分野、地域となっています。昨年は、地域木造住宅生産体制強化部会(部会長・青木JBN会長)のもとに大工技能者育成WG(主査・藤澤好一)が設置され、委員として学識者、関係業界団体、および国土交通省、文部科学省、林野庁、中央能力開発協会などの代表が加わり、以下の様な点について広く検討されました。

内外の職業教育制度、職業能力基準、一人親方労働(仕事)、就労履歴管理システムなど、現状の分析、今後の課題などが整理され、取り組むべき方向が示されました。

大工技能者の職業能力が多様に分化しているにもかかわらず、そのキャリアを含めて評価・証明する共通の仕組みがないために生じているさまざまな混乱、不遇をどう回避していくのかの方策を探ることとなりました。

これらのテーマを今年度は、木を活かす建築推進協議会に設置された大工技能者育成検討委員会でも引き続き検討を重ねており、年度内に一定の成果を出すことになっています。委員を構成する関係業界団体としては、JBNをはじめ、全建総連、全建連、日本ツバパイフォー協会、日本木造住宅産協会、全国住宅産業地域活性化協議会、建築技術教育普及センターなどで、JBNからは、青木会長が委員として参加しています。今年度は、大工技能者の職業能力評価基準の策定を中心に検討しており、これがもたらす効果や影響なども合わせて議論されています。とくに新規入職時の訓練のあり方、処遇、訓練による能力水準の設定と評価などは、業界を挙げて取り組むべき課題となっています。

昨年10月、平成22(2010)年国勢調査の抽出詳細集計結果による職業(小分類)・年齢(5歳級)別の就業者数が発表されました。これをもとに大工数の過去45年間の推移を見たのが図1です。ピークの1980年には94万人でしたが、2010年には40万人と半分を大きく割り込んでいます。それだけではなく60歳以上の割合が8%から28%と高くなり、その一方で30歳代までの割合が、52%から28%に減少しており、高齢化が進んだことが読みとれます。2010年調査時の大工の平均年齢は、50.4歳でした。ちなみにとび職は38.8歳で他の職種に比べても高く、図2と合わせてみるとその傾向は顕著です。55~59歳区分を中心に山をなしており、この団塊が5年後、10年後にリタイアすれば激減という事態も予測されます。

最も懸念されるのは、新規入職者の激減です。2010年調査では、10歳代が2,100人、20~24歳が10,150人、25~29歳が21,590人ので、過去最低となっており、入職減に加え離職傾向も上がります。

国勢調査に見る大工数の推移 進む減少と高齢化

図1. 国勢調査による年齢区分(10歳)別大工数の推移

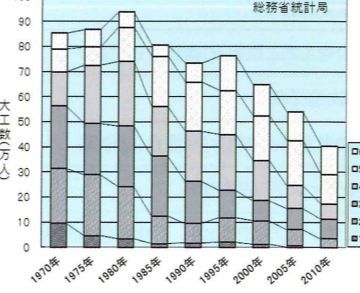
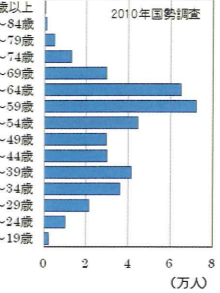


図2. 大工の年齢区分(5歳)別分布



FSC® 森林認証紙と植物油インキを使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用しました。

活動報告

■前月号以降の活動

○第0607回 理事会 2月12日(水) 13:30～18:00

開催場所:JBN会議室
出席理事数:15名(総数17名)
出席監事数:1名(総数2名)
定足数の理事、監事の出席による理事会成立を確認した。

【あいさつ】

・青木会長

大雪で足元の悪く、お集まりいただき感謝します。今日はJBN2014年度の方針を固めたい。会長として次の一年二年を引き受ける以上は、事務局体制の整備、強化を早急に実現し、組織の持続性を確かなものにしなければならない。時間を掛けて会長としての考えを述べ、皆さんの意見を聞き、方針を確定したい。

・河井副会長

JBNのあるべき姿をしっかりと見定め、それに向けて課題に取り組んで行く必要がある。JBNは会員のみなならず、官界、業界、そして社会から寄せられている期待にも応えなければならない。ここからのJBNをどうするか、突っ込んだ議論を行いたい。

【報告事項】

- 前回理事会議事録
第0606回(2014年1月15日)議事録の確認をした。
- 月次定例報告(センターレポート、会員実数、住宅履歴登録数、財務概況等)
資料にもとづき、事務局より説明された。
- ジャパンホームショー、広島大会決算報告
資料の決算書にもとづき、事務局より説明された。
- 建設マスターの候補者二名(秋田県 佐藤長栄、広島県 政木稔)の推薦
推薦の手続きと経緯が事務局より説明された。
- エコハウス&エコビルディングEXPO (2/26(水)～28(金)) JBN・工務店セミナー
資料にもとづき、事務局より説明された。
- 北見ビルの契約更改
当初2年の契約期間満了に伴う更改と同時に、名義人を(一社) JBNに変更、更新料(賃料一月分595,329円)支払いについて事務局より説明された。
- 大阪府の新連携団体設立の折衝状況と「JBN大阪府(仮称)」鈴木理事、事務局より進捗状況について説明された。
- 全建連会員団体・埼玉県中小建築工事業協会のJBN会費未収金事務局より、交渉経緯と未回収の会費を未収金として計上することが説明された。

【審議事項】

- 新規入会(連携団体・会員・協力会員)の承認について
申請のあった、協力会員2社、正会員6社、準会員1社、計9社の入会を承認した。
- JBNワーキンググループ規程の改訂
2014年度方針にもとづき、次回の理事会での継続審議とした。
- 大工育成基金の創設について(継続)
大工育成をJBNの主要な事業とすることを再確認した。基金創設については、本会計からの元入金金を拠出することとし、その金額、基金の名称、寄付の募集方法については引き続き検討することとした。
- 新年度に向けての体制整備について(継続)
青木会長より、資料にもとづき2014年度方針の説明があり、河井副会長が補足説明を行ない、基本的な方針を了承し、詳細は会長に一任することとした。
また、森田常務理事待遇の業務として事務局を統括していくことが確認された。正式な常務理事就任は次の総会の審議を経て決定することとし、事務局人事については青木会長に一任することとした。

次回理事会:2014年3月11日(火) 14:00～16:30

於・JBN会議室

●人事異動(採用)

1月30日付 小泉多恵(総務経理)

事務局ダイアリー・会長の動き(1月～2月)

1月	●本部事務局 ●委員会・講習会 ▲会長
6日(月)	●仕事始め
8日(水)	▲三役会
9日(木)	■大型木造研究委員会実験(富山)1日目
10日(金)	■大型木造研究委員会実験(富山)2日目
15日(水)	●理事会 社員参加 ●協力会員・社員・理事懇親会 ■次世代の会 ■長期優良住宅壁量計算の実務研修会(富山) ■国土交通省平成26年度施策説明会 ▲河井副会長と国土交通省・林野庁・環境省挨拶
16日(木)	■省令準準&防耐火講習会(神奈川) ■長期優良住宅活用セミナー(青森)
20日(月)	■長期優良住宅活用セミナー(山形) ▲BL来社 ▲全国木造住宅生産体制推進協議会強化委員会
22日(水)	▲LIXIL 筒井副社長 来社 ▲木活協・木造技能者育成委員会
23日(木)	●全木協神奈川県協会 応急仮設住宅「施工技術等講習会」 ■JBN耐震診断施工指導者講習会(滋賀)1日目
24日(金)	■長期優良住宅活用セミナー(秋田) ■JBN耐震診断施工指導者講習会(滋賀)2日目 ▲インスペクター講習打ち合わせ 瑕疵保険協会
27日(月)	●会計事務所打合せ ■ストックビジネスWG準備会 ■中古流通WG
28日(火)	■省令準準&防耐火講習会(岐阜) ■国産材委員会主催セミナー ■長期優良住宅壁量計算の実務研修会(熊本) ▲全建連連神奈川県労大会(山田JBN神奈川会長も)
29日(水)	■環境委員会 ■長期優良住宅活用セミナー(福島) ▲長期優良住宅リフォーム委員会(国交省) ▲(一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議セミナーで閉会挨拶
30日(木)	■JBN耐震診断施工指導者講習会(福岡県) ▲全木協全国事例発表会議 ▲戸建住宅実質委員会
31日(金)	■JBN耐震診断施工指導者講習会(福岡県) ■既存改修委員会
2月	○本部事務局 □委員会・講習会 △会長(白ヌキは予定)
5日(水)	■移住すまかえ+JBN再生住宅説明会 ■ストックビジネスWG準備会 ■JBN耐震診断施工指導者講習会(愛知県)
6日(木)	●三役会
7日(金)	■JBN耐震診断施工指導者講習会(愛知県) ■JBN認定品質住宅団体検査員講習会(鳥取)
10日(月)	■「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会(富山県)
12日(水)	●理事会 ■次世代の会
13日(木)	■「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会(愛媛県) ▲環境省 ●○住宅・建築物WG
14日(金)	■「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会(長野県) ■省令準耐火・防耐火講習会(香川) ▲にいがた木造建築協会 総会にて講演
17日(月)	■「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会(熊本県) ▲木活協・木造技能者育成委員会
18日(火)	■「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会(岡山県)
19日(水)	■マーケット委員会 ■次世代の会
20日(木)	■「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会(福島県)
26日(水)	□エコハウス&エコビルディングEXPO出展
27日(木)	□エコハウス&エコビルディングEXPO出展 □中古住宅流通WG
28日(金)	□エコハウス&エコビルディングEXPO出展 □既存改修委員会

●地域型木造住宅フォーラム 2014(鳥根県益田市) 河井JBN副会長がパネリストとして参加

2月8日(土)、益田市立市民学習センター・多目的ホールにて、「地域ネットワークによる家づくりと地域型木造住宅のブランド化」をテーマにしたフォーラムが開催されました。主催は鳥根県住宅振興協議会(事務局一般財団法人鳥根建築住宅センター)で、国土交通省平成25年度住宅市場整備推進等事業によるものです。参加者は、地域の工務店、設計事務所、石州瓦組合関係者、行政など約100名でした。

基調講演は、伊藤明子氏(国土交通省住宅局住宅生産課長・出雲市出身)による「これからの木造住宅産業」。その要旨は、若者がアパート住まいから始まり、将来は戸建てに住むという「住宅双六」の時代は終わった。高齢者が便利さを求め都心に住み替えるなど、多様な世帯構造で需要も変化しつつある。わが国の住宅ストックは耐震性などが劣る、など市場価値は低い。これを性能向上リフォームによって価値を高め、きちんと評価され取り引きされる方向を目指すべきで、その仕組みづくりを推進する国の施策にも及びました。

続いて、「住宅ブランド化がもたらすもの」をテーマに公開討論が行われました。パネリストとして、河井英勝(広島県工務店協会会長)、伏谷忠義(清流高津川を育む木の家づくり協議会代表)、コメンテーターの伊藤明子(前出)、コーディネーターの脇田祥尚(近畿大学建築学部教授)の各氏によって、活発な討議が展開されました。

本欄では、JBN副会長の河井英勝氏が『風・光・安芸のいえ』の事例をもとにコメントした要旨を紹介します。

広島県工務店協会は地域工務店のサロニック的集まりとしてスタートしたが、一時期は会員数が10社までに減り、大手との差別化をめざし再スタートし、現在の会員は75社、賛助会員50社に復活した。仕事をとる力をどう蓄えるか、ボランティアによる協力体制をつくり、勉強・研修・情報発信してきた成果だ。特に力を入れたのが、大工育成であり、脱・下請けをめざしたこと。地域型木造住宅ブランド化は、先導的モデル住宅からチャレンジしてきた成果を引き継いでいるが、流通業者の囲い込みにならないようにも留意してきた。鳥根の石州瓦は広島にとっては地域材であり、地域にあったブランド化は自らのネットワークで創り上げていくものだ。

緊急・災害時における応急仮設住宅への体制の整備にも関係者の連携が重要。平常時においても、住宅づくり、リフォーム、公共建築物の木造建築化でも、情報交流をはじめ力をあわせて取組むことが何よりも重要。その意味でもJBNの存在に負うところは大きく、今後の発展に期待している。



公開討論会 「住宅ブランド化がもたらすもの」取材協力:石州瓦工業組合

●「性能向上リフォームの考え方と取組み」講習会 既存改修委員会による成果報告を全国6会場で

JBN・既存改修委員会では、地域工務店が既存住宅の改修市場で今後も中核的な存在でありつづけるためのさまざまなサポートのあり方を追究するとともに、これまでに地域工務店の豊富な経験と実績、知識と技術に学んだことを、優れた改修の実例集、指針集の作成、講習会の開催を行ってきました。

今年度は、国土交通省平成25年度「木造住宅施工能力向上・継承事業」として、昨年度のバリアフリー化、耐震化、省エネルギー化などの基本性能を効率よく高めるための性能向上リフォームの取組みの成果をふまえ、全国のJBN会員工務店の優れた事例を収集し、改めて性能向上リフォームの考え方、綿密な現地調査、診断、正確な判断から工事後の維持管理の提案までを整理した応用マニュアルにまとめました。

この成果物と合わせて、委員会メンバーが収集した事例をパワーポイントにまとめ同じ工務店の目線から、メンバーが分担して解説を行う講習会を以下のように開催しました。

講習会日程	会場	参加者概数
2月10日(月)	富山県 総合情報センター セミナー室	52名
2月13日(木)	愛媛県 ウェルピア伊予 鳳凰の間	45名
2月14日(金)	長野県 まつもと情報創造館 マルチメディアホール	50名
2月17日(月)	熊本県 空港ホテルエミナース りんどうの間	65名
2月18日(火)	岡山県 ラヴィール岡山 フルール	45名
2月20日(木)	福島県 郡山市民文化センター 第3会議室	62名

プログラムと講師: (いずれも13:00～17:00) 敬称略

挨拶と趣旨説明: 地域連携団体会長 玉置敏子/鈴木貴雄(既存改修委員会 正副委員長)

- ①性能向上リフォームのすすめ 今井信博/樋口祥一(現代計画研究所)
- ②事例で学ぶ性能向上リフォーム 高橋秀彰・富山/山田文夫・愛媛/鈴木晴之・長野/竹脇拓也・熊本/関尾英隆・岡山/丸山勝人・福島(既存改修委員会)
- ③顧客への性能向上リフォーム提案
- ④顧客への提案方法 楽喜美/木村信夫(アドバイザー)
- ⑤顧客に信頼される見積書 太田修弘(経済調査会)
- ⑥性能向上リフォームと長期優良化リフォーム推進事業 玉置敏子/鈴木貴雄 質疑応答

国では「既存住宅の改修市場の整備」をすすめています。「長期優良住宅化リフォーム推進事業」もはじまりました。そのねらいは、しっかりと改修された良質な既存住宅の価値が高まり、長年にわたって利用されることで、地域の住文化の醸成、環境負荷の低減、循環型社会への転換にもつなげるということです。

既存改修委員会では、性能向上リフォームへ積極的に取り組む、提案力のある地域工務店をサポートするための活動に取り組んでいます。今年度は、国土交通省平成25年度「住宅ストック活用・リフォーム推進事業のうちリフォームの担い手支援事業(リフォーム工事に係る設計・施工基準等の作成等)」として採択された「住宅の維持・管理における点検メンテナンスの基本ガイドラインとその考え方の指針の作成」事業にも取組み、「聞き取り・現地調査と維持管理のためのガイドライン」(4面参照)を作成しています。

これらを利用した講習会開催も企画中です。ご期待下さい。



講習会の趣旨説明をする玉置委員長(郡山会場)

●にいがた木造建築協会設立総会 2月14日(金)、チサンホテル新潟で開催

「にいがた木造建築協会(近藤進会長)」は、昨年6月にJBNの連携団体会員となり、活動体制を整え、このほど設立総会が新潟市内で開催されました。総会に先立ち、近藤会長(株式会社近藤工務店)は「これまでは大工育成等を中心に活動していたが、今後はJBNの支援を積極的に活用し、色々な講習会やセミナーを開催していきたい。また、補助事業等にも取り組み、受注に繋がるような活動を展開していきたい」と挨拶しました。同協会では、「地域型住宅ブランド化事業」にも採択され、「長期優良住宅設計セミナー」や「長期優良住宅活用セミナー」を開催しており、総会では長期優良住宅への取り組みをより強化することを確認しました。

総会に続き、JBN青木会長が講演し、JBNの役割やこれからの地域工務店が取り組むべき課題などについて訴えました。なお、にいがた木造建築協会は、JBN新潟県の事務局を担当し、会長には近藤氏が就任しています。



総会で講演する青木JBN会長